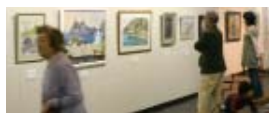


めざせ世界遺産登録 あなたも参加団体で活動しませんか？

市展に世界遺産部門

鎌倉市文化協会

鎌倉市文化協会には音楽関係7団体、美術等展示関係6団体、舞台関係8団体の計21団体が所属しており、アートで後押し展展示風景全団体合わせると約17,000名にもなります。



最も大きな活動は鎌倉市民文化祭の運営・参加です。9月のオープニングイベントに始まり、61回を数える市展を含め、今年も第52回鎌倉市民文化祭を秋3ヶ月半に亘り開催します。

市展の美術と写真両部門では2007年から世界遺産登録をアピールするため、鎌倉の世界遺産候補地をモチーフにした作品を募集し、世界遺産部門として展示しています。今年はより多くの応募を期待して、この部門だけ展示期間を倍にします。

また2008年4月には、鎌倉在住の画家20余名に世界遺産候補地を描いてもらい、写真連盟会員の同じモチーフの写真と共に展覧会を開催しました。5月には美術、写真、書道鎌倉彫による「アートで後押し展」を開催し、文字通り世界遺産登録を応援しました。

理事の村田さんは「鎌倉市が世界遺産登録推進活動を継続する中で景観は守られ、整備され、市民の文化的な意識が高まるのですから、今後も文化協会は強力に活動を支援して参ります。必ずや世界遺産登録が実現することを信じて。」と抱負を語ってくれました。

りんどう号で世界遺産登録をアピール

京浜急行バス株式会社

京浜急行バス株式会社では、車体に「鎌倉は世界遺産登録をめざしています」というメッセージと「武家の古都・鎌倉」のシンボルマークを描き、世界遺産登録をアピールするレトロ調のバス「京急りんどう号」を運行しています。

このりんどう号は2代目で、推進協議会にご参加いただいている同社の創立5周年と京浜急行電鉄の創立110周年を記念して、2008年10月に復活しました。通常はJR鎌倉駅東口から大仏前までの路線で運行されていますが、鎌倉まつりや京急ファミリー鉄道フェスタ、横浜ベイスターズファン感謝デーなどのイベント時にも登場し、観光客などの市外県外の方々へ鎌倉の世界遺産登録を強くアピールしています。同社には、「古都鎌倉に合っている」という声だけでなく、「りんどう号を見て初めて鎌倉が世界遺産をめざしていることを知った」との声が寄せられているそうです。

京浜急行バスさんは「鎌倉の世界遺産登録をめざした取り組みへ、自動車事業を営む企業として、今後も全面的に協力します」と、抱負を語ってくれました。



京急りんどう号

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第11回 東勝寺跡はどんなところ？

東勝寺跡は、一三三三年の新田義貞の鎌倉攻めにより鎌倉幕府滅亡の地となった場所です。

東勝寺は第三代執権北条泰時が、一族の氏寺として建立したと伝えられています。『太平記』には「北条高時は父祖代々の墳墓の地である葛西ヶ谷に、守る兵は東勝寺に籠って自害し、館に火をかけた」とあります。丘陵中腹にある腹切やぐらでは宝戒寺により北条氏一門の供養が行われていますが、宝戒寺の寺伝によれば東勝寺での死者は葛西ヶ谷の東側の釈迦堂谷に葬られたとあります。事実、釈迦堂谷やぐら群からは刀傷のある生焼けの白骨や初七日にあたる「元弘三年五月二十八日」銘の五輪塔が出土しています。

昭和四十九年以降、東勝寺跡では4度の発掘調査が行われ、平成八年度の調査で確認された炭層を伴う掘立柱建物跡は、『太平記』の記事にある幕府滅亡時に焼けた建物と考えられています。古代から中世の東国の武士館は背後に山を負い、有事の際にはそこに立て籠もるのが特徴でした。東勝寺跡はまさにその機能を発揮した場所だったのです。このことは、東勝寺跡周辺の丘陵に残された堀切やテラス状に造成された平場などの多数の土木遺構からも窺い知ることができます。

これまで東勝寺跡の発掘調査で確認されている鎌倉時代の遺構は、寺院というよりは館の建物の特徴を示しており、館の一角に寺院があつた鎌倉時代の武家館の特徴が窺える重要な遺跡だといえます。